

本郷町

平成24年1月
第137号

自治会だより

発行 本郷町自治会 広報部



謹賀新年



年頭に当たって

本郷町自治会長 嶋村 豊



皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当自治会活動にご協力を賜り、誠にありがとうございました。

何もかもが破壊され、多くの人命が奪われた昨年3月の東日本大震災。被災地の方々や福島第一原発事故で避難している方々は、仮設住宅や遠く離れた地での困難な生活の中、それぞれ助け合いながら、早期の復興や故郷への帰還を願ひ、厳冬の寒さに耐えております。被災地の人達に復興の暖かな春が一日も早く来ることを心から願うものです。

昨年、さいたま市は誕生から10周年を迎えました。当初103万人余りを数えた人口が今や124万人に届かんとするなど、大きな発展を見ております。「みんながのびのび、暮らせるまち」をキャッチフレーズに、「市民一人ひとりがしあわせを実感できるまち」をこれからのさいたま市としております。私達も自治会活動を通して新たなさいたま市を実現していきたいと思っております。この事業の一つに市内10区の花の制定があり、北区の花は「菜の花」となりました。

さて、今年は、平成18年7月に着工した634mのスカイツリーが建築技術の粋を集めて5月に開

業します。同じく5月には九州南部から関東付近までの带状の地域で「金環食」が見られます。日本の金環食は1987年の沖縄地方以来25年ぶりです。特に首都東京での金環食は1839年以来173年ぶりとのこと。7月にはオリンピックがロンドンで開催されます。なでしこジャパンなど日本選手の活躍が期待されます。何かと社会が停滞気味の中、こうした新たな出来事が現状を打破し、将来への希望の光を点す契機となることを願うものです。

今年の干支は、実際には実在しない動物の龍年です。中国では大変縁起が良く大切にされていると聞きます。天に昇る龍のごとく、被災地復興や景気を強く押し上げ、世の中を明るく元気にしてもらいたいものです。

昨年、暮れに一年を表す漢字に「絆」が選ばれました。東日本大震災ではお互いに助け合う絆の大切さを強く認識させられました。自治会の活動でも助け合い、支え合う、「きずな」を基本として進めてまいりたいと思っております。皆様方には、引き続き、自治会活動に對しご支援をお願い申し上げます。終わりに、皆様方のご多幸とご健康を祈念いたしまして年頭のあいさつとさせていただきます。

文化部研修旅行



十月十三日は、文化部主催の施設めぐりでした。早朝にもかかわらず、多数の会員の皆様の御参加を頂きまして有り難うございました。高速道路で少々の遅れはありましたが、無事国会議事堂に到着致しました。格式高く重量感のある建造物には度肝を抜かされる感がありました。この重厚なる議事堂に負けない位の国民の安全、安心を担って頂きたいものと願いました。

次の羽田では新空港となりました場所で、海外のお客様に日本を紹介するものを賣るお店の並んだ場所も散策して頂きました。飛行機の発着は時間帯のこともあり見ることは出来ませんが、御満足いただけたと思っております。最後の横浜中華街では、ゆつくり昼食をしていただきまして、時間まで街中散策していただきました。

一日のお疲れは帰途のバスにて癒していただけましたでしょうか？

御協力本当に有り難うございました。

文化部 戸澤 清子

大砂土地区運動会

大砂土地区運動会が十月二十二日に大砂土小学校グラウンドで行われました。十六日開催の予定がグラウンドコンディション不良の為一週間延び、また順延日の前日も雨が降り開催が危ぶまれましたが、集合時間を三十分早め九自治会実行委員全員で水溜りなどのグラウンド整備を行い、定刻通り開催することができました。これも全員で努力した賜物と感じました。

今年から小学生リレーが各自治会選手が集まらないということで、(リレー)を得意とする本郷町としては残念ですが、対抗競技から一般競技となり、また順延になったことで有力選手が都合つかなくなったりで、今年の本郷町は実力を出し切れずに終わってしまった感じがします。自治会対抗七種目の最初の競技であるゲートボールリレーから始まり六種目の年齢別リレーが終わった段階で今羽町団地自治会と総合得点で二位に並び、最終種目の東西対抗綱引きで勝ち点を取り何とか二位を守ることができました。

今年の運動会の本郷町は選手選考、練習など反省すべき点もあり、来年度の課題として受け止めて今度こそという気持ちで来年度に臨みたいと思います。

最後に参加して頂いた選手の方々、また裏方としてご協力下さった役員、実行委員の皆様ありがとうございました。

体育部長 新井 啓一



種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
男子100m	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100									

「本郷」という名 本郷昔ばなし

暖い南の風に誘われて、待ち遠しかった梅も開きはじめ、やがて、ももさくらと、四月の新学期も間近です。その中、新しいランドセルを背負った二年生のかわいい姿が見られます。

大砂土小学校は本郷町にあり、広いグラウンド、立派な校舎、そして長い歴史をもつ学校として知られています。去る四十八年には、創立百周年のお祝いがありました。

明治の初めまでは、今の塾のような寺子屋があり、勉強好きだった僅かの者だけが、読み書き、そろばんなどを習いました。

明治五年学制がしかれ、太政官布告によってどの村にも不学の家がなく、どの家にも不学の人が居なくなるように」とのお達しで、日本国中に学校ができるようになりました。

その時いち早くできたのが「本郷学校」です。場所は今の高林寺で、教室は本堂でした。明治六年五月のことです。教師は高松・磯部・川島の三先生で、今羽・本郷・土呂の生徒が通いました。熱心だった村人は進んでこともを学校へあげました。

「本郷学校」はやがて土呂に遷され「土呂小学校」となり、場所を替えて、「大砂土小学校」となりました。今の大砂土公民館のある所です。広い校地を求めて今の大砂土小学校に遷ったのは昭和二十九年のことでした。

大砂土小学校発祥の地である高林寺の境内には大きないちじょうの木があります。おそらく、このいちじょうの木は「本郷学校」の昔をよく知っていることでしょう。

(昭和五二年三月一日)

北区民まつり

十一月六日、平成二十三年度北区民まつりが市民の森グリーンセンターにおいて開催され、我が本郷町も、毎年好評を頂いております。「手打ちうどん」「さつまいもスナック」「手作りまんじゅう」のメニューを掲げ出展しました。

前夜からの雨もあがり、天候が懸念される中での開催でしたが、本郷町の各売り場では早朝よりお客様の行列ができ、午後より小雨が降りだしましたが、美味しそうにうどんを食べる親子連れや、熱々のポテトを頬張る若者など賑やかな姿が見られました。

昔ながらの製法で作るまんじゅうコーナーも人気があり、長い列が出来ていましたが、メンバー各自が効率よく役割をこなし、午前中に完売する好結果となりました。参加頂いたスタッフの方々も疲れを感じたと思いますが、心地よい疲れだったのではないのでしょうか？



改めて、良き協力体制で参加頂いた皆様の労をねぎらいます

と共に、お買い上げ頂いたお客様へ感謝する次第です。来年へ向けましては、更に効率アップし、行列を少しでも減らす事など、若干の課題は残りますが、新たに智恵を絞り、丸となつて臨めば解決できるのではないかと考えます。

最後になりましたが、事前準備や後片づけをはじめ、ご協力頂きました全ての皆様のおかげで無事終了できた事を感謝致します。

まんじゅう班 川向 康之



自宅でできる 介護勉強会

自宅でできる介護の勉強会を十一月二十四日、三十名の出席で行いました。地域の一つの拠点である諏訪の苑を利用してほしいというところから、病気を知らないと大切ということ、諏訪の苑の小松丈祐苑長のお話からはじまりました。

老いることとはどういうことか、それは何となく自信がなくなるかと、女は母親として、男は長年務めた仕事をやめて家にいるようになる。居場所がなくなる。女は一人になると、だれかの為になつていく。死にたいというのには死にたくないこと、もし言ったらどう答えてくれるか気になる。死にたい人がなぜクニックに行ったり薬を飲んだりするのか。友達をいっばい作ること、悪いところを探さない、それが上手く付きあつていけることを忘れない。食べたか食べないか。物忘れは神様がくれた心の休みである。うつ病とは心のとじこもりである。おしゃべりをさせ外に連れ出すと良い。認知症の入り口は脳であるというが七十才から八十才になれば脳は萎縮するのは当たり前だ。家族との心のケアが大切だ。という事など良く分かる、笑いを交えての楽しい講義でした。

女性部長 広瀬 弘子



参加された方に
インタビューしました。

なぜ参加したのですか？

介護の実技を学びたかった。
もし家族に何かあったら役立てたいので。
主人が認知症が始まりましたので精神的な悩みを共有したかった。
今は元気だがこれから年をとって参考にしたいと思った。

参加してみてどうでしたか？

楽しくて学ぶことができた。
実践的ですくいかせそう。
力を入れずに車イスからの立たせ方の補助のコツがわかった。
など熱心な感想をたくさん頂きました。

介護される側とする側の意志の疎通が大切。介護は相手の持っている力をお互いに利用する。これが相手も楽し、介護する側も楽しというお話が心に残り、力がわいてくるような気持ちになりました。



広報部

本郷子ども会もちつき大会



今年も本郷神社の境内にベッタベッタという、おもちつきの音が響き渡りました。好天に恵まれた十二月四日、子ども百八十人、役員・協力員六十五名が集まり、恒例のもちつき大会が行われました。始めに体力自慢のお父さんたちが交代でもちつき、近隣のおばあちゃんの指導のもと、お母さんたちがもちをかえし、丸めました。子どもたちはビンゴゲームを楽しんだあと、つきたてのおもちにあんこ・きなこ・からみ・しょうゆなど、好きな味を選び「やわらかい」「つきたてはおいしいね」などと舌鼓を打ちました。三十キロのもち米も、あつという間にお



いしいおもちになって、参加者の心とお腹を満たしてくれました。お腹がいっぱいになったら、今度は子どもたちがおもちをつく番です。重い杵を振り上げ「よいっしょ」と掛け声をあげながら日本文化のもちつきを体験しました。また、本郷町自治消防部のご好意で消防車を出していただき、運転席に乗ったり、消防ヘルメットをかぶってみたり、普段はなかなかできない体験をさせていただきました。



本郷子ども会では、小学生向けのイベントをたくさん企画していますので、来年度もみなさんのご入会をお待ちしています。
本郷町子供会
近江 郁美

本郷町自治会ホームページ

本郷町自治会HP

検索



どうぞご活用下さい!

『本郷町自治会ホームページ』

アドレス

<http://www011.upp.so-net.ne.jp/hongouchiyou/>

検索 『本郷町自治会HP』

今後の行事予定

- ・自主防災訓練 (ふれあい広場) 二月 五日
- ・歩け歩け運動 三月 初旬
- ・高齢者のつどい (大砂土公民館) 三月 七日
- (本郷会館) 三月十二日



編集後記



日本各地で大災害が起きた平成二十三年がようやく終わり、新しい年を迎えました。ふつうの生活ができることに、心から感謝しながら時を大切に過ごしたいと思えます。
本年もどうぞよろしくお願い致します。

- 長島 弘子
- 那須 清住
- 佐々木美佐子
- 堀江 清吾
- 蓮見 正行
- 佐藤 清美